

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600398		
法人名	都メディカル 株式会社		
事業所名	グループホーム福田の家(3号館)		
所在地	静岡県磐田市東小島260		
自己評価作成日	平成23年9月9日	評価結果市町村受理日	平成23年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2276600398&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成23年9月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム福田の家は、田園風景の中にあり、周囲には実のなる木・四季折々の草花が楽しめる木造平屋建ての建物です。
毎朝天気の良い日には、外気浴を楽しみリハビリ体操・歌・散歩など健康と気分転換を兼ね楽しんでいきます。
定期的に発行している「福田の家だより」を御家族や自治会の方々に送り、交流を深めながら「その人らしく安心して過ごせる家」を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家の点在するのどかな田園地帯に立地している。花壇に囲まれた広い敷地は四季折々の変化が楽しめ、管理者が付近の住民にも楽しんでもらうようにと心掛けていた様子が見えた。敷地内に畑があり、採れたサツマ芋を利用者と一緒にホットプレートで焼いて食べたりしている。施設内の扉は解放されていて風通しよく、外気が居室内まで吹き抜けていた。開設後8年が経過し、自治会長と協力のもと今年度は「福田の家だより」を周囲の各戸に配布するまで至っている。中学生や高校生との交流も進み、特に高校生を交えての避難訓練では、高校生による地域貢献の貴重な機会となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの運営理念を決め、目につく所に掲示し、実現に向けて努力している。	理念は各館の事務所に掲示している。職員は理念にもとづいて生活歴や性格を把握し、それぞれの出来ることを見極め「そのひとらしく過ごせる」ことに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事等(祭典・避難訓練)に参加させてもらっている。	自治会や近隣との付き合いも長く、機関紙を各戸配布できるまでの関係ができています。今年度は18名以上にのぼる中学生の福祉体験を受け入れ、折り紙やカルタ取り、踊りなど一緒おこなって利用者から好評を得た。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで「認知症とは？」について説明し、理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会・家族・地域包括・市の協力を得て開催、現在のホームの状況を話し、皆様の意見を参考にサービス向上に役立っている。	自治会長の運営推進会議への参加は4年以上になり、年数を経た重みのある発言が得られている。会議では施設内の事故防止について質疑応答がおこなわれたり、運営改善されている様子が記録から視認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と相談しながら、ホームの運営に活かして取り組んでいる。	市からは運営推進会議にも参加してもらっており、介護相談員も定期的に来ている。市が主催するの担当者会議に出席することにより、顔の見える関係作りが進んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士話し合い理解するように努め、御家族とも話し合いを行っている。身体拘束の宣言を掲げている。	身体拘束の宣言を継続し、施設は広々と開放され比較的自由に移動できている。職員の取り組みとして背後から声掛けしない、「だめ」と言わないなどの教育を重点的におこなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市町村の指示に従っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する取り組みは特に出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に重要事項説明書を交付して、説明・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を設けている。窓口を明確化し玄関の所にも「御意見箱」を設置している。	意見箱を設置し、また面会の際には家族から意見を聞くようにしている。管理者に対しても、意見があれば直接言ってもらうように呼びかけている。運営推進会議に出席する家族がいつも同じ顔ぶれになってしまうことが今後の課題である。	参加の少ない利用者家族の参加や一同に会しての交流が進むことが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を開催し、職員の意見・情報の共有化を計っている。	「職員会議以外では愚痴を言わない」という方針のもと、職員会議では自由に発言できるようにしている。職員会議での決定をもとに、自己チェックシートを作成し、管理者がコメントを記入して職員に渡す試みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	さまざまな規定を作成し、伝える事で向上心を持った仕事をしてもらえる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は規定の受講を義務化している。内外の研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内管理者との情報交流を常に行いホームのサービスに反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に直接お話を聴く機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族に直接お話を聴く機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力老人保健施設の相談員・地域責任者にアドバイスを受けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	運営理念を基本におき、支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に職員は御家族の方々と協力し、また、理解をしていただき、本人にとって最善の対応を模索、また、実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が御家族・友人・知人とふれあう事の出来る様に御家族に、協力をお願いしている。	新聞を購読したいという利用者や、毎日ヤクルトを飲みたいという利用者の希望を叶え、それらを毎朝配達してもらうなどしている。外食の希望があれば年に数回ではあるが、一緒に行く事ができている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の中に入り、利用者同士が円滑にコミュニケーションが取れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者とのコミュニケーションを大切にして、その中から一人ひとりの思いや意向を把握して、日常生活に生かしている。	入所してから数か月間は、特によく観察するようにしている。季節による変化についても把握し、その他変化があった内容と対処方法を「介護詳細」に記録し職員が毎日確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを実施し、モニタリングを定期的に行うことで、これまでの暮らしを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを実施し、モニタリングを定期的に行うことで、これまでの状態を総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	統一したケアが出来るように、月初めの一週間ミーティングを実施している。モニタリングを行い、それを基に介護計画を作成している。	3号館では担当制を設けているが、評価は職員全員でおこなっている。短期目標が介護記録に記載されているため、記録しながら目標達成状況がわかるという工夫が覗えた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護詳細記録に日々の様子で気付いたこと等を記入し、介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が入院した場合などは、御家族の状況や都合に応じて病院移送・付き添いなども対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前もってお店にお願いして、入居者の方を昼食を食べに連れて行き、自分の好みで注文して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大橋医院と協力機関として契約し、月一度受診している。また、本人・御家族が希望する馴染みの医療機関でも受診できるように支援している。	協力医療機関を設けているが、従来からのかかりつけ医に受診する利用者が2～3割いて、職員は必要な情報伝達をしている。医療記録は申し送りや経過記録に記載し、情報の共有化を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との連携はない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居が可能か、御家族から状況を聞いたり、入院先の医療機関を訪問して確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	チームとしては出来ていない。	重度化の際に24時間対応してくれる医療機関が付近にないこともあり、看取り介護の提供はできていない。入所の契約時に介護の限界について説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策マニュアルを掲げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月2回の防災訓練を行っている。昨年は初めて、地域の高校生が参加し、一緒に行う事が出来た。	昨年12月に、高校生役割を重視した防災訓練を開催し、10人以上の参加があった。訓練では普段からかかわることの大切さを知る機会につながった。防災頭巾の購入や風水害のマニュアル作成もおこなわれている。	地域の防災訓練にも参加することが期待される。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の言動等を否定することがないように対応している。	利用者の尊厳を保つため、児童施設ではないという考えで飾り付けや掲示物に配慮している。プライバシー確保の取組として、職員が自己チェックを作成することで接遇についての振り返りの機会につながった。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定出来るように手助けしたり、自己決定を否定することがないように話に耳を傾けるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者を最優先に行う事を心掛け、希望があればその都度希望に添った支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者が持参された衣類を、季節に合わせて着用して頂くように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けを出来る入居者と一緒に行っている。	対面式のカウンターキッチンの特性を生かし、利用者は食材を切る音や調理の匂いも感じることができる。利用者準備や片付けにもかかわってもらっていることもあり、介護施設という感じは少なかった。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が確保できているか？記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、一人ひとりの排泄状況や習慣を把握するようにしている。	排泄チェックシートによる排泄パターンの把握を継続している。特に、尿意・便意の訴えのできない利用者が汚染されたままで不快な思いをしないように、各段階に応じた支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記入して、運動や食事などを一人ひとり工夫し、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴を行うようにしている。入浴の順番は入居者の身体状況に合わせて支援している。	広い浴槽なので、2～3人が一度に入浴でき、一人を希望する利用者には個室を提供している。入浴の曜日を決めているが、ユニットごとに入浴日が異なるため希望があれば好きな日に入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないように配慮しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の記録を残し、一人ひとりの症状の変化に注意し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	建物の敷地内にある畑で作物を育て、成長・収穫・味覚を楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外気浴を楽しんだり、入居者の身体状況に合わせて、散歩の支援をしている。	近所の複数の散歩コースから選択して散歩できる。外出については食材の買い出し以外に、コンビニや100円ショップでの買い物なども行っている。屋外で外気浴を楽しんだり、利用者の希望に応じて比較的自由に外出できている様子が視認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金規定にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話は、希望に応じて利用出来るようになっている。手紙は希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋建てで天井が高く、明るくゆったりとした空間がある。	3号館では、行事の写真や季節の創作物がさりげなく飾られている。建物は木造のぬくもりを活かした作りになっていて、共用空間の天井は広く、くつろいだ空間を実現している。窓からの景色は広がる青空と周辺の緑とのコントラストが綺麗だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルとソファが置かれている。ホーム前の広場には、ベンチを設置し入居者が一緒に集える場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していた物、馴染みの物を持ってきていただいている。	各居室は毎朝7時ころから職員が掃除しているため、床まで清潔な様子が視認できた。3号館の居室には家族の写真やカレンダーを飾っている様子が視認できた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を生かし、出来ない事のみを支援・見守り・声かけを行っている。		